～島おこし協力隊　就任のお知らせ～

「島おこし協力隊」とは？

島おこし協力隊（地域おこし協力隊）は、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致し、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とする取組です。

具体的には、地方自治体が都市住民を受入れ、一定期間以上、農林漁業の応援、住民の生活支援などの各種の地域協力活動に従事していただきながら、当該地域への定住・定着を図っていくものです。

上島町では、10月より２名の島おこし協力隊を採用しました（原則１年、最大で３年まで延長可）。弓削総合支所企画政策課に藤巻さん、岩城総合支所産業振興課に大井さんが配属され、それぞれ町内で活動を行う予定です。町民の皆様、島おこし協力隊をどうぞ宜しくお願い致します。

上島町弓削総合支所　企画政策課
島おこし協力隊　藤巻　光加

自己紹介

はじめまして。この度、島おこし協力隊として、上島町にまいりました藤巻光加（ふじまき　みつか）と申します。出身は山梨県で、小中高と富士山を見て育ちました。大学入学を機に上京し、就職。東京でマーケティングの仕事をしておりましたが、縁合ってこの度、上島町に夫婦で移住し、人生の新たなスタートを切ることになりました。趣味は、水泳、トレッキング、読書、裁縫です（どれも初心者ですが…）。今年は、釣りに挑戦したいと思います。生名に住んでおりますので、海辺で見かけたら、ぜひご指導のほどお願いします！

抱　負

島に来てまだ日は浅いですが、感動することがたくさんありました。すれ違う際に挨拶してくださる住民の方々。元気な子どもたち。毎日違う夕日。キラキラと輝く朝の海。もしかしたら皆さまにとっては当たり前のことかもしれませんが、人のあたたかさ、自然の美しさは、上島町の素晴らしい魅力です。島おこし協力隊として、私が行いたいことは、その魅力を外に発信し、町と町、人と人を繋いでいくことです。まずは、上島町のことを知ることからですね。地域の中で暮らす者、且つ、移住者という２つの視点で、上島町の魅力を見つめ、発信していきたいと思います。

上島町岩城総合支所　産業振興課
島おこし協力隊　大井十和子

自己紹介

はじめまして。この度大阪から島おこし協力隊として岩城島へ移住してきました、大井十和子（おおい　とわこ）と申します。学生生活、社会人生活とずっと大阪で暮らしておりましたが、今回初めて大阪以外での新生活にワクワクしています。前職は今年の８月まで一般企業で事務職をしておりました。旅行が好きで長期の休暇には四国や九州、北海道など自然の豊かな所へ出かけて、アウトドアスポーツをしたり、その土地の特産品を食べに行ったりと楽しんでおりました。上島町でも、時間を見つけて、遊び、及び探検に出かけてみたいと思っています。どうぞよろしくお願いします！

抱　負

今年の２月にワーキングホリデー（農業体験や島巡り）を利用し、初めて岩城島へ来てから７ヶ月後に島の住民になるとは自分でも驚いています。レモンハウスで収穫体験をさせて頂いた時、ハウスに入った途端爽やかなレモンの香りがただよってきた事に感動しました。多くの方々にこうした体験をして頂けるよう、農業や漁業などを観光メニューに繋げていけるような企画を考えてみたいと思っています。また、新しい特産品を作ってみたいという希望もあります。上島町が持つ多くの豊かな資源を活用し、町の活性化に少しでもお役にたてるよう頑張ります。

こんにちは　町長です

九月二十八日、離島甲子園に出場した全国の中学生が寄せ書きをした色紙や横断幕を、気仙沼市唯一の離島である大島中学校野球部の皆さんに届けてまいりました。

気仙沼市へは、上島町から九月に高本室長、十月には山本係長が一ヶ月単位での人的支援として出向しており、大きな被害を受けた港湾の設計を担当しています。現地の災害復興担当の方々にもお話を聞かせて頂き、被災現場の視察も行いましたが、私が平成一六年の全国離島振興協議会総会時に訪れた時に比べ、あまりにも様変わりした光景に、現実感を失ってしまいました。

しかし、大島中学校の校長先生から震災直後の子供たちの活躍のお話を聞かせて頂き、また、野球部員の元気な顔と対面することで、大島は必ずや再生復興することを実感いたしました。

上島町で開催した離島甲子園会場において、町民の皆様や応援していただいた町外の方々から多くの義援金を賜り、大島中学校に野球道具を贈ることもできました。この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。

大島の海水浴場の松も枯れていましたが、今後は中学生と共に再生させるというお話も聞きました。被災地の新たな歴史に、これからも末長いご支援をよろしくお願い致します。

上島町長
上村俊之